

Narajoisic

Newsletter June 2023 vol.71



奈良女子大学国際交流センターは、2023年4月より

奈良国立大学機構 **国際戦略センター(奈良女子大学)** /

Nara National Institute of Higher Education and Research

Nara International Strategy Center

に名称を変更しました！略して、

Nara ISC

ならいすく

と読んでください。どうぞ「ならいすく」をよろしくお願いします。

Nara ISC (奈良女子大学)はこんなところ



Nara ISC 国際戦略センター(奈良女子大学)では、海外研修、交流イベント、留学相談、本の貸出のほか、留学生向けに、文化教室(茶道、いけばな)、見学旅行、日本語学習(日本語ボランティア)、就職支援、その他何か困った時の相談受付等を行っています。

センターの中には留学に関する情報や、語学教材・小説をはじめ日本の漫画やDVDもあります。貸出もできますし、部屋のテーブルスペースで読んでいただくこともできます。

ぜひ、センター主催のイベントやプログラムに参加して、日本人学生と留学生のコミュニティづくりのきっかけにお役立てください。みなさまのご利用お待ちしております！

利用時間：
月曜日～金曜日 10:00～17:00



Inside This Issue

- Nara Iscに名称変更
- 国際学会での発表報告
- 交換留学体験記(イギリス)
- TOMODACHI STEMに参加
- 留学生実地見学旅行(彦根)
- CotoQueイベント 他



2022年度 大学院生の国際学会での発表

国際戦略センター(奈良女子大学)は、奈良女子大学大学院で学ぶ正規学生が海外で開催される国際学会で発表する際の航空運賃を支援する事業をおこなっております。2022年度第二期は、2名の学生が国際学会で発表しました。国際学会に参加したときの様子や感想を紹介します。

大学院人間文化総合科学研究科博士前期課程 化学生物環境学専攻2年
松岡 未樹

2022年12月11日から15日にかけてアメリカのパームスプリングス（カリフォルニア州）で開催されたThe Protein Phosphatases Conference (PPCSRC22)に参加しました。本学会は日本プロテインホスファターゼ研究会と米国の研究者とが共同で申請・採択された FASEB シンポジウムとして開催された学会であり、世界中のプロテインホスファターゼ研究者が集まり、最新の研究成果を発表しました。

私は「Functional analysis of protein phosphatase PP6 in the nervous system」という題目で口頭発表を行い、Protein Phosphatase 6 (PP6) という脱リン酸化酵素が神経系においてどのような機能を担うかを明らかにすることを目的とした研究について発表を行いました。初めての国際学会であったこと、コロナ禍の中での海外渡航であったことなど不安も多くありましたが、最終日の私の発表まで時間があったため、他の参加者の発表を聞き、加筆修正した方が良い文章を考えるなど原稿の推敲と練習を重ねました。そのため、発表終了後に海外の方も含めて多くの方々に「良い発表だった」と仰っていただけたことは大きな自信につながりました。一方で、他の参加者の発表内容を英語で理解するのが非常に難しかったこと、私の発表での質疑応答においても聞き取りや回答に苦労したことなどから、自身の英語力の向上が必要であることも痛感しました。今回の経験を通して、国内だけでなく海外の研究者の方々にも自身の研究成果を伝えられたことだけでなく、熱意をもった参加者との交流や最新の知見を得られたという非常に貴重な経験ができたと感じました。学会への参加にあたり手厚い支援をいただきました奈良女子大学国際交流センターの皆様改めて心より御礼申し上げます。



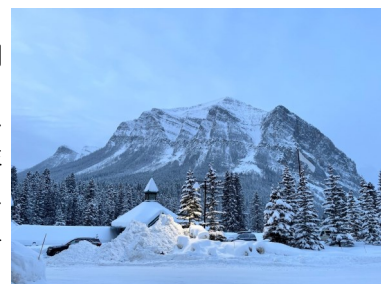
大学院人間文化総合科学研究科博士前期過程 数物科学専攻 2年生
高濱 瑠菜

2023年2月19日から25日にかけて、カナダで行われたLake Louise Winter Institute 2023に参加し、口頭発表を行いました。本学会は、1986年から年に1回開催されている招待制の学会であり、素粒子物理学分野から幅広い分野の研究者が参加します。

私は、米国ブルックヘブン国立研究所のRHIC加速器で行われた、金原子核同士を光速で衝突させ、QGPと呼ばれる物質を作り出すPHENIX実験のデータ解析を行いました。PHENIX実験は約20カ国から500名以上の共同研究者を有する大型国際実験です。原子核同士の衝突によるエネルギーは、粒子生成のエネルギーに変換されます。そのとき粒子は衝突の幾何学的な異方性に従い方位角異方性を持って分布します。私の研究では、その方位角異方性と衝突に持ち込まれたエネルギーを表す発生粒子数との関係に、新たに発生粒子数と逆相関を持つ値を軸に加え解析を初めて行いました。

今回の学会は私が参加していた実験の分野以外にも多くの参加者が参加していたため、様々な視点からの意見を頂くことができました。また、私自身も他の実験の発表を聞くことができ、新しい分野への興味を広めることができました。食事中も研究者同士がお互いの実験に興味を持ち、楽しそうに議論している様子に刺激を受けました。様々な国から、様々な分野の研究者が集い議論を交わす様子に、私も混ざりたいと思った気持ちは、英語と研究へのモチベーションの向上に繋がり、非常に有意義な時間でした。

また、学会開催期間中は学会が行われるホテルに滞在していました。その際、同じように学会に参加する中国人のポスドクの参加者とルームシェアをしました。カナダで初めて会い、一緒に部屋に滞在するのは不安や緊張もありましたが、一緒にご飯を食べたり様々な話をしたりする中で仲良くなることができました。年齢や国籍、身分も違いましたが、日本の文化に興味を持ち尊重してくれていたことが何より嬉しかったです。最後に、学会参加にあたり多大な支援を頂いた奈良女子大学国際交流センターの皆様改めてお礼申し上げます。



交換留学体験記

交換留学で海外の協定校へ留学していた学生が帰国し、感想を寄せてくれました。
みなさんも交換留学に挑戦してみませんか？

将来につながる交換留学

理学部化学生物環境学科 3年
勝山 侑菜
レスター大学（イギリス）

＜他の国の留学生との交流＞

レスター大学にはヨーロッパ諸国だけではなく、アジア、アフリカなどのさまざまな国からの留学生がいます。また、入学の時期にはウェルカムイベントがとても盛んでたくさんの友だちを作ることができました。写真は、みんなで自国の料理を持ち込んで夜ご飯パーティーをした時のものです。私は天ぷらを作りました。好評だったようでよかったです。4ヶ月という短い期間でお別れとなってしまいましたが、帰国してからもSNSでやりとりを続けています。今年の6月にレスターの友だちと一緒にマレーシアを旅行する計画を立てています。ずっと続く友だちを作ることができて、海外の大学生になってみるという素敵な機会をいただけたと実感しています。



＜Women in STEMでの活動＞

理系女子の集いに参加していました。パネルディスカッションでは企業の研究所や学術機関など様々なところで活躍している研究者、技術者の女性のお話を聞くことができました。博士課程の時に結婚をし、子育てをしながら博士号を取得した方もいました。日本では女性の博士号取得者はまだまだ少ないですが、その方の生き方に背中を押され、家庭も自分の夢も諦めない人生を送りたいと強く思いました。

＜留学生生活を振り返って＞

今一番心に残っている気持ちは「海外で生きることはそんなに難しいことじゃないな」です。留学に行く前、海外で生活したこともなく、英語が得意だったわけでもなかったため不安な気持ちがありました。しかし、いざ現地についてみると周囲の人はみんなフレンドリーで親切で、新しい環境にすぐに馴染むことができました。また、話す言葉が違うだけで、周囲の人も私と同じ大学生であることに気づき、一緒に過ごす時間を全力で楽しむことができました。これから、どんな仕事やきっかけで海外に行くことになるかわかりませんが、恐れることなく自ら進んで海外に飛び出していける人間になることができたと感じています。

に参加した学生からの活動報告

日本の大学で理工系学部を専攻する女子大学生10名を対象とした5週間の研究インターンシップ・プログラム「TOMODACHI STEM Women's Leadership and Research Program 2023」に参加した学生からの活動報告です。

理学部 化学生物環境学科 生物科学コース 4回生

本多優希奈

アメリカ・ヒューストン ライス大学

1. 研究という側面（今後へ向けて）

私は4月より修士課程に進学し、神経科学、脳科学の研究を行う予定である。しかし、大学生としての4年間は主に生物学、細胞生物学を専攻し、神経科学に関する知識や研究を行ってきたことはなかった。もとより、コロナ禍で様々な学問と触れる中で脳に興味を持ち、「遺伝子や細胞がどのようにして脳や身体全体、そして感情や考え、行動に影響を与えるのか」という生涯をかけて取り組む大きな疑問に出会ったことが研究人生への第一歩となった。大学院より分野を少し変えることになり、その最中、夏にこのプログラムの存在を知ったのである。このプログラムでは、今まで触れてきたことのない神経科学の知見や技術を得ることを一つの目標にしていた。

私の所属させていただいた研究室はハエを扱い、神経と筋肉の接触ができなくなってしまう病の原因遺伝子の一つであるアトラスチンの研究を行っていた。私自身、ハエを扱うことでさえ初めてであったため、ハエの教科書をお借りし、一から勉強を始めた。その間、解剖等の技術の習得と遺伝学的分子細胞学的アプローチも学んだ。これらの知見や技術は神経科学を研究する上で必須となるものである。近い将来で必ず役立てると自負している。

また、何度かメンターの方と教授のミーティングに参加し、同じ結果であったとしても、時折、双方で考察の仕方が異なっていることに気づいた。それは私の行った実験結果でも、メンターの方の考察は私のものと異なっており、とても勉強になった。一つの実験結果が生じた時、それらの見方が大きく異なると、その考えの違いや、それらが生じた論理がとても興味深く、また非常に学ぶことが多かった。どのような見方をすれば、論理展開として矛盾が生じないか、という意識もこれからの研究考察に取り入れたい。



メンターの方 (Dr. Saurabh Srivastav)



教授 (Prof. Michael Stern)



ハエの幼虫を解剖している様子

2. キャリアについての考え方（今後へ向けて）

アメリカでは、非常に多くのサポートがあり、それは多種多様であった。PhDへの給与は特にクリティカルであり、日本との大きな差異であると言えるだろう。また、女性の研究者、教授が多いため、女性のキャリアやライフイベントへの理解が日本よりもあるように見られた。しかし、本プログラムで参加したJSPSのミーティングでも、日本のシステムやキャリア理解が少しずつ変わってきている様も認識し、今回のプログラムを通して、研究人生で諦めかけていた選択肢が少し増えたように思う。アカデミアでのキャリアは、女性が少なく、またライフイベントを諦めやすい傾向にあるように思っていたが、今あるサポートを駆使し、キャリアも人生も諦めないようにしたいと思った。また自分自身が、ある程度キャリアを積み、人脈や権力を少しでも持つ日が来るのであれば、このような研究キャリアのサポートや改革の一端を担いたい。

3. 日本への考え方

本プログラムでは、アメリカに対する様々な発見や学びがあったものの、同時に日本の発見や学びもあった。アメリカではそれぞれの分野、研究のみならず、音楽や芸術等でも、最先端の技術を持っており、それらは世界に匹敵するものであることを痛感すると同時に、日本は現実社会、生活においてそれらの技術を最大

限利用し、その質を維持し続けている偉大さを学んだ。他国に比べ、明らかに小さな島国で、様々な歴史的、自然的障害を乗り越え、とても質の高い生活、社会を築けていることは、日本の強みであると誇りを持って言える。また、研究面において、アメリカの研究室では、17時には帰宅しているところが多く、日本では夜遅くまで研究しているところが多いように思うが、これらもとても面白い違いとして考えることがあった。アメリカでは飲み会等を通して、研究室同士が気軽にコミュニケーションを取り、それらのコミュニケーション頻度も非常に高いため、限られた時間の中で、今ある技術を効率よく取り入れることができるのに対し、日本はそのようなコミュニケーションの頻度は少ないように思う。しかし、日本人の国民性である、ハードワーカーなところや、繊細で丁寧なところ、というのは、日本でしか生み出せない技術、現実世界への応用、質の維持という点に大きく繋がっていることがわかる。働き方改革等ある中で、ハードワーカーである部分を推奨するのは違うのかもしれないが、それでも私たちのそのような国民性は自身でより深く誇りに思うべきだと思った。

4. ルームメイトとの生活

このプログラムはリーハイ大学とライス大学に5人ずつ配属されるプログラムであるが、私はライス大学に配属された。このプログラムと並行して、台湾のプログラム（MACHI Program）も行われており、ライス大学に配属された学生はこの台湾のプログラムに参加している学生とルームメイトとなって、約一ヶ月の生活をした。

このプログラムが始まる前、渡米の日が近づくにつれ、とても緊張したのを覚えている。一ヶ月という期間、台湾の学生とルームメイトになるということは知っていたが、相手がどんな性格をしていて、うまくやっつけられるか、とても心配していた。私の英語力は生活する上では問題ないと思うが、何かトラブルがあったときに、自分の思っていることをきちんと表現できるのか、自信がまるでなかった。研究を行う上では、言葉よりも見て覚え、手を動かすことが多く、英語にも心配があったが、それ以上に、一緒に生活する人を自分の英語で傷つけることはあってはならないとひどく心配した。ましてや、お互い、日々の研究活動で疲れて帰ってきて、心に余裕のない状態で、直接的でキツイ言葉をぶつけないか、自分の捉えている意味と相手の捉えている英単語の意味が異なることはないか、それを特に不安に思った。



最初の日のことはとても覚えている。とても緊張していた。初めて会った日は日本人の学生は先にホテルの部屋（キッチン付き）に着いていて、台湾の学生は深夜0時を回って部屋に着いた。いつの間にか寝落ちしていたが、ドアの開く音で目を覚まし、声をかけ、いろいろ向こうが支度をしているのを見届けてから、お互いに「Good night」と声をかけ眠った。のちに、ルームメイト、アイリスの手紙で知ることになるが、彼女もこの夜のことを鮮明に覚えていて、私を起こしたらどうしよう、迷惑をかけたらどうしよう、と心配していたようだった。でも不思議と、なんとかなりそうな気がした。

実際の生活はとても楽しいものだった。とても居心地が良く、快適に一ヶ月を終えた。毎日のルーティンは、お互い同じくらいの時間に部屋に帰ってきて、一緒にご飯を作り、一緒に食べて、その後1時間以上話し、シャワーを順番に浴び、勉強をする。休日はお互いにここに行ってみよう、と話をし、他のメンバーを誘う。そんな感じだった。私とアイリスは性格、価値観、感覚が似た部分が多く、そこが大変良かったように思う。時間を守ることや、アメリカで生活をする上での警戒心、周りの人が気に留めないようなことを真剣に考えること、注意深い点、リュックサックの同じ位置に同じようなマスコットをつけているところ、挙げたらキリがないくらい。だからこそ、私の拙い英語表現でも、感覚的に理解してもらうことも多く、非常に助かった。いろんな話をした。将来のキャリア、ラボへの考え方、お互いの国のこと、人の性格のこと、お互いに好きなアイドルの話、真面目な話から、どうでもいい話まで、本当にたくさんのお話を話した。料理やお菓子を買うときも、実験と称して、いろんなことを試し、爆笑し、買い物ではいろんなグッズを熱弁しながら「これは買ったほうがいい！」とお互いにいろんなものを買った。プログラムが終わる頃には、彼女との別れが本当に心苦しく思うほどに、彼女との生活は楽しかった。

最後の夜はアイリスから手紙をもらい、彼女が先にホテルを旅立ち、その手紙を読みながら大泣きした。アイリスも私も、この一ヶ月がとても楽しかった。このルームメイトの割り振りはプログラムを運営してくださっているライス大学の教授の方が20分の会話でマッチングを決めたようだが、その教授にはとても深く感謝をしている。彼女の手紙にはこうあった。彼女の好きな曲に「Two kids room」というものがある。その曲には、2人のメンバーがソファに座って仲良しげに会話をする。そういう姿がとても憧れていた。そしてこの一ヶ月の生活はまさしくその憧れていたものであった。毎日たくさんのお話をし、楽しいこと、悩みを共有した一ヶ月は紛れもなく大切なもので、プログラムであなたに出会えたことが一番良かったことだと。私も同じようなことを彼女への手紙に書いた。さまざまなことを学んだプログラムだが、彼女に出会えたことが一

一番大きいことだったと思う。

このプログラムを通して学んだことをしっかりと胸に刻み、自分の将来にしっかりと繋げていきたい。

Dear Iris,

The best thing about this program was meeting you.

If I could choose a roommate again, I would choose you as well.

Best

Yukina



理学部数物科学科物理学コース 3 回生

手塚綾音

アメリカ ペンシルバニア州 リーハイ大学

理系の女子学生を対象とした表題のプログラムに参加しました。このプログラムは 2 週間のオンライン授業と、5 週間の米国での研究インターンシップで構成されています。私は Pennsylvania 州 Bethlehem の Lehigh 大学で超ひも理論の研究方法を学びました。プログラム最後には Houston へ移り NASA Johnson Space Center と Dow Chemical 社を見学しました。

各人が紙を用いて数式を解こうと試みたり、Mathematica という数式処理ソフトを用いて方程式を解こうとしたりして、教授とのミーティングで成果や疑問点を交流し、今後の方針を決定することにより研究が進められていることを知りました。また、私が使わせていただいていた Ph.D. student の部屋では、凝縮系物理や生物物理を専攻している人など、同じ物理専攻でも分野が異なる人同士で知識を共有するだけでなく、お互いの研究の面白さや計算手法等を教えあっており、常に学ぼうとする姿勢に感銘を受けました。

他の参加者との交流はとても刺激的で、各々の興味のある分野に対する熱意に鼓舞されました。

このプログラムで出会った全ての人のサポートにとっても感謝しています。



2023年度 海外研修・海外留学 開催予定

< 渡航型 >

8/20-9/2

セブ島 (フィリピン)

8/26-9/4

ケアンズ (オーストラリア)

8/27-9/10

ハワイ (アメリカ)

< オンライン >

8/28-9/1

セブ島A (フィリピン)

9/11-9/15

セブ島B (フィリピン)

8/28-9/1

ニュージーランド

9/4-9/8

オーストラリア



留学生実地見学旅行—菜の花館と彦根城—

2023年5月27日(土)、留学生を対象とした日帰り旅行を実施しました。

今回の行き先は「愛東 菜の花館と彦根城」で、奈良女子大学留学生40名、奈良教育大学留学生3名、引率2名の計45名が参加しました。

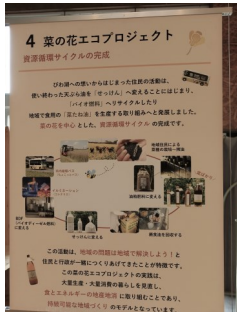
<スケジュール>

8:20 奈良商工会議所集合、バス乗車 — 10:30 ~ 11:30 あいとうマーガレットステーション・菜の花館—
12:00 ~ 13:30 自由昼食 — 13:30 ~ 16:50 彦根城、玄宮園、彦根城博物館 — 18:10 奈良商工会議所到着

●参加者の感想(抜粋)●

○奈良女子大学の留学生と一緒に彦根に行くいい機会に参加することができて嬉しかったです。バスの中でのクイズも楽しかったです。また、菜の花館、ひこにゃんを見れる彦根城も、移動手段や旅行支援クーポンなど全てが良かったと思います！本当にありがとうございました！

○午前見学したあいとエコプラザには、理想的な環境のためのサークルについて色々勉強になりました。小さな行動でも、環境を守ることになれると感動しました。大学卒業したばかりの男性がすぐふるさとに戻って、他の地方の人と一緒にこのプロジェクトに参加して、協力しながら環境を少しずつ改善していくのは素晴らしいと思います。午後は彦根城で、初めて来たところです。景色も素晴らしいし、かわいいひこにゃんも出会えたり、楽しかったです。ただ、彦根城の階段はちょっとやばい@@。私の足は大変疲れました。そして、今回は初めて今期のすべてのベトナム人の留学生が集まり、話し合ったことなので、とても楽しかったです。○今回の日帰り旅行でなければ、滋賀県に遊びに行くのは難しいと思いますので、このような機会をいただきありがとうございます！ 菜園館で廃油回収でリサイクルを紹介しました。普段は廃物だと思っていたものをリサイクルできて、環境もよくなるのがいいなと思いました。時間の都合で夢京橋のお店にじっくり見ていなかったのが残念ですが、ランチの近江牛おいしかったです。午後の彦根城も面白かったです！天守閣の階段は険しいですが、そこから見た景色はとてもきれいです！ひこにゃんも可愛くて写真いっぱい撮りました。



CotoQue Event

CotoQueでは、いろいろな国の言葉や文化に触れられるイベントを行います。

イベント以外の時間も、日本人学生や留学生が気軽に集い、交流を行う場として活用できます。

CotoQueは、学内でここに来たら国際的なもの(言語・文化)に触れられる！という空間になります。

キーワードは「グローバル」「多言語」「異文化理解」そして何よりも「楽しく！」Have fun in CotoQue!

4/26 Let's トーク アニメ

◇ 私が知らないアニメについても知れて楽しかったです！
◇ 話したことない人達ばかりで不安でしたが、みなさん優しく話しくなくて楽しかったです。ゲームも盛り上がり楽しかったです。また開催されたら参加したいです。

5/11 おしえて!交換留学体験談

◇ 留学経験を実際にお聞きする機会は滅多にないので、今回のイベントは有意義で且つ楽しいものでした。私自身は留学を現時点で考えてはおりませんが、興味のある国際関連の企画には今後も参加しようと思います。

5/12 Naramachi Walk

◇ 先輩が美味しいお店等を教えてくれたので楽しかったです。
◇ 韓国語独学中なので、今回韓国の方と実際にお話しながら、奈良を観光することが出来て良かったです。

5/18 韓国語オープントーク

◇ 韓国語の発音が上手と褒めて貰って、とっても嬉しかったので、韓国語の勉強もっと頑張りたいと思いました！間違っても通じるから、どんどん話して欲しいと最初に言ってくださったので、気楽に参加することが出来ました。

茶道教室

2023年6月7日(水)、S棟のラウンジ「SHI Café Dear deer!」にて

「留学生のための茶道教室」を開催しました。イベントに参加した留学生は、先生からの茶道についてのお話と、お手本の後、自身でもお抹茶を点てて飲みました。

◇この短い時間で茶道の歴史背景を学べるし、実際お茶を点てるのも体験できました。面白かったです！お茶を点てるのは簡単そうに見えるが、実際にはたくさん力を入れますね。先生の動きは全然違って、美しくできていたので、かっこいいです！

◇ It was very interesting to learn about the history part and make the matcha. The okashi we're very cute and tasty!



年に一度は国際交流を楽しもう！

奈良女子大学では、在籍中のすべての学生が、毎年1回以上の国際交流活動に参加することを推奨しています。
国際交流活動をするとポイントがもらえます！
国際交流イベントに参加したら、LMSの「奈良チャレンジ活動」に登録しましょう！

奈良チャレンジ活動
についてはコチラ



2023年度 センター及び国際課の活動と活動予定

4/6	4月新入留学生オリエンテーション	6/14	海外留学説明会
4/26	CotoQueイベント Let's トークアニメ	6/16	夏休み海外オンライン研修説明会
5/10	夏休みフィリピン セブ島研修説明会	6/20	CotoQueイベント English Open Talk
5/11	CotoQueイベント おしえて！交換留学体験談	6/21	CotoQueイベント 留学生のためのいけばな教室
5/12	合同研修 ハワイ・オーストラリア研修説明会	6/26	CotoQueイベント 韓国語オープントーク
5/18	CotoQueイベント 韓国語オープントーク	6/28	CotoQueイベント English Open Talk
5/27	留学生実地見学旅行「菜の花館と彦根城」	6/29	CotoQueイベント 韓国語オープントーク
5/29	CotoQueイベント 韓国語オープントーク	* * * 以下予定 * * *	
5/30	CotoQueイベント 中国語オープントーク	7/17-21	サマープログラム「万葉」
6/6	国際交流インターンシップ説明会	7/26	CotoQueイベント English Open Talk
6/7	CotoQueイベント 留学生のための茶道教室	8/19,20,	オンラインプログラム「そらみつ」
6/12	CotoQueイベント English Open Talk	26,27	

奈良国立大学機構 Nara Isc 国際戦略センター (奈良女子大学)

NEWSLETTER Vol.71 2023年6月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp